

様式2 令和4年度 清瀬市立清瀬第三小学校 学校評価表

学校教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	
○よく考え やりぬく子ども(重点目標) ○やさしく 思いやりのある子ども ○明るく 元気		【育成を目指す資質・能力】 「協働問題解決能力」 ○基礎的な力(言語、数量、情報スキル) ○他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知) ○他者と共生できる力(人間関係形成力) ○社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力)	
目指す学校像(ビジョン)		【特色ある教育活動】 重点1 「協働問題解決能力」を中心に学力の向上を図る 重点2 他者と共生できる豊かな人間性を育む 重点3 「協働問題解決能力」を育む学校支援本部の活動を保障し、地域に開かれた学校づくりを推進する。	
【目指す学校像】 地域の風が行き交う学校 ○「共に学んでよかった、明日も学びたい」といえる学校 【目指す児童・生徒像】 「他者と協働して主体的に問題を解決しようとする子ども」 【目指す教師像】 ◎進んで学び合い、責任をもって教育活動を遂行する教師 ・児童一人一人と信頼関係を築き、個々のよさを引き出す教師・保護者や地域と連携する教師			

前年度までの学校経営上の成果と課題  
 ・「誰にでも分かる授業づくり」の観点で三小スタンダードをもとに指導や教室環境の整備を充実させることができた。協働問題解決能力の向上をめざし、校内研究では国語の「書くこと」について研究に取組み始めた。体験学習など学校支援本部の支援による教育活動もさらに充実してきた。課題としては、校内研究での昨年の成果を基に、「自分の思いや考えをもち、書くことで表現する力」を伸ばしていくことである。思いや考えをもつためには、学校支援本部をはじめとする保護者・地域や専門家の方々と連携し体験活動を積み重ねさせる中で、教育活動全体を通して基礎的なスキル、思考力・判断力・表現力、人間関係形成力、社会的実践力などの力を意図的・計画的に育むことに取り組む。また、地域の防災活動に依って、今年度は児童の防災意識を高める活動を計画する。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		取組指標	成果指標	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	単元の学習計画の中で全員が自分の考えを表現する場面を作り、全員参加の授業をつくる。 一人1台端末を活用し、授業改善を図る。	4	4	・ペアやグループでの話し合う時間を取り、考えを伝え合う場を設けるようにした。ただし、全体の場で積極的に発言する児童には偏りが見られるため、教員から発言の機会を与え、経験を積ませると同時に自信をもたせていく。 ・スライドやFormを活用して感想や意見、調べたことや考えたことを伝え合うことができた。また、スライドにまとめることで、聞き手を意識した発表ができるようになった。	・タブレットの活用については、端末に児童・教員共に慣れてきていく良くなっている。積極的な発言については、答えづらいこともあると思うが、チャンスを与えてくれる環境を作っている教員の工夫は素晴らしい。
	書く意欲が高まる課題づくりやグループ学習の方法を工夫し、考えを広げたり深めたりできる授業をつくる。	4	4	・活動に取り組みの際、目的を明確にすることが書くことへの意欲へと繋がった。また、語彙や言い回しが増えることで前向きに取り組むようになった様子も見られる。今後も継続して指導を行う。 ・書くことが苦手の児童に対しては、書き方のモデルを示したり、個別の支援を行ったりすることで、少しずつ書けるようになってきている。	・ノート大賞の取り組みは、良い効果をあげている。児童の目標になっていると思われる。
豊かな心の育成	「挨拶と返事」が大切にできるように、学年・学級で工夫して取り組む。 児童会での取組みを強化し、児童が自分から挨拶できるよう意識の向上を図る。	4	3	・担任や学級の友達に挨拶することは定着してきた。しかし、他の教員や来校者、校外学習時など、別の人や場では積極的に挨拶できない児童が多い。日常生活だけでなく学級活動や道徳を通して、挨拶の大切さやタイミング、場面について指導をしていく必要がある。また、学校だけでなく、家庭でも実践してもらえるように啓発していく。	・自分が知っている教員に挨拶ができていない点がポイントとなる。まずは教員から挨拶ができる雰囲気づくりが必要なのではないか。言葉と会釈を大切にしていきたい。
	いじめ未然防止の取組を学年毎に工夫して行う。(3年以上は年2回のアセスを実施し、検証する)	4	4	・日頃の生活の中で、友達や学級のために動く児童を認め褒めることで、児童同士でも認め合える雰囲気づくりをし、児童の自己有用感を高めることができた。 ・ふれあいアンケートやアセスを積極的に活用し、見えないことがないよう、絶えずアンテナを張り巡らし児童の様子を見ていた。 ・気になる児童については学年会やさきらの先生、校内委員会でも共有し、担任だけで抱えることがないようにしている。	・いじめの未然防止は続けていき、担任は抱え込まず他の教員と共有を行ってほしい。子供から他の人に伝えなくて意思表示がある場合もあると思うが、子供とのコミュニケーションによって、なるべく他の教員にも情報が共有できるようにしていきたい。保護者アンケートの問い方に、もう少し工夫をしてもらいたいのではないかと。
健やかな体の育成	体力向上旬間の取組では、個人や学級毎に目標数値を掲げて取り組む。	4	3	・短なわ旬間や持久走旬間に向けて、個人目標を立てて、意欲的に取り組めるように指導をした。 ・短なわ旬間では休み時間もなわびに取り組み児童が多く見られた。持久走旬間は寒さもあり休み時間に取組む児童が少ない傾向があるため、体育の授業中にも取組んだ。 ・来年度はさらに自分の目標に向かって積極的に取り組める活動を講じる必要がある。	・短なわ、長なわ、持久走旬間の設定は継続して行ってほしい。加えて、旬間の児童の意欲を喚起するような取組を作ってみてはどうか。例としては、地域で運動が得意な方や外部団体の方を講師に招いて教わる等。
	「早寝早起き朝ごはん」点検の結果等を使って、児童と保護者に対して生活習慣への啓発を工夫して行う。	4	3	・保護者会や学年だより、個人面談で周知をした。 ・朝ごはんを食べてきている児童は多い。しかし、夜寝る時間が遅い児童が多いので繰り返し指導した。 ・6年生は、メディアコントロールについて事前指導があったおかげで、多くの児童が意識をし取り組むことができた。	・メディアコントロールについて、6年生以外でもアンケートをしてみてもどうか。アンケート内容を食事とメディアコントロールの項目に分けて問うても良いと思う。
特別支援教育の充実	週1回の校内委員会・年3回以上の研修会を実施し、個別支援が必要な児童についての共通理解を図り、指導・支援の方法を共有し、指導に当たる。	4	4	・支援を要する児童について、生活指導連絡会を通して情報共有をしたり校内委員会でも対策を検討したり、きりり担任と連携をとって手立てを考えた。また、 ・来年度は、リーフレットを全学年に配布するなどさらなる啓発活動を講じる必要がある。	・きりり教室の配布物は、全学年で継続的に配布しても良いと思う。内容についても、学年別に内容を変えてその学年に合ったものを配布してはどうか。オフィシャルな内容については動画を利用して、QRコードの活用もある。
	保護者会の際に特別支援コーディネーターによる説明や資料提供を行う。	4	3	・資料配布の他に、きりりでの取り組みなどを周知していく。 ・中学年では、特別支援学級についての理解啓発授業をコーディネーターに行ってもらい取り組みをした。	・特別支援教育に対する理解は、家庭への説明だけでは難しい部分も考えられるので、児童への啓発も必要である。
本校の特色	感染症対策を行った上で、異学年交流を図ると共に、学年ごとに地域や保護者等との参画型授業・出前授業等を計画的に工夫して行う。	4	4	・縦割り班活動や行事の中で、異学年と交流する時間が多くあり、目的をもって行うことができた。また、兄弟学年での交流もできた。さらに、上の学年は、下の学年のお手本になれるよう、多くの児童が自覚をもち行動することもできた。 ・町たんけんで、地域の方との関わりをもつことでほとんどの児童が意欲的に活動した。	三小の素晴らしい特色である地域交流を、より積極的に進めてほしい。地域の施設の活用も考えられる。しかし、学校の負担にならないよう、支援本部や外部団体を利用してほしい。
	読書への興味を高める取り組みを、学期毎・学年毎に計画して実施する。計画的に俳句作品の掲示や発信を行う。	4	4	・読書旬間中に特に意識を高めていた児童が多かった。今後も幅広い読書ができるように蔵書を増やしていきたい。また、保護者の方の読書開かせを子供たちは楽しみにしているので、回数は改善しながら、引き続きお願いしたい。 ・季節ごとに俳句作りをすることで、児童が季節を意識し、質の高い作品を作れるようになった。今後も季節、行事、コンクールごとに作品作りを継続していく。俳句作りができない月があったので、すきまの時間を活用して取り組めるようにする。	・読書の推進をさらに進めてほしい。図書室の蔵書について、助成金の利用も活用するなど、本の冊数を増やしていきたい。デジタル図書館を上手に活用していきたい。デジタル図書館を上手に活用していきたいという意見もある。